

久留米大学を受診した患者さんへ

「臍裂傷に伴う産科危機的出血に対する動脈塞栓術の検討」の研究に使用する画像データについて

この研究では、久留米大学を受診し、手術・検査の際に採取し保存されている以下の画像データを使用します。

- 1) 期間：2008（平成20）年1月から2014（平成26）年6月
- 2) 受診科：産婦人科
- 3) 対象疾患名：産科危機的出血
- 4) 使用する試料（画像データ：CT, DSA, US）

あなたの試料を今後の医学の進歩のために研究に使用させていただきたくお願い申し上げます。研究の内容の詳細は以下のとおりです。

研究内容をよくお読みになり、もし研究にご協力いただけない場合は、お手数ですが下記の連絡先までご連絡ください。

研究ご協力の撤回受付は研究成果の公表前までとなります。

ご了承いただけますよう、お願い申し上げます。

- 1) 研究組織：所属：放射線医学講座
研究代表者：准教授 小金丸雅道
研究分担者：教授 安陪等思
 助教 岩本良二
 助教 久原麻子

2) 研究の意義と目的：産科危機的出血は動脈性出血を伴い、重症化、死亡例をきたすことがあります。産科危機的出血に対し、保存的加療や外科的処置にて止血困難例は、動脈塞栓術による止血術が試みられます。子宮弛緩出血の頻度が最も高いですが、臍裂傷に伴う動脈出血例もあります。この場合、臍動脈を選択的に塞栓しますが、臍動脈の分岐形態は明らかにされていないのが現状です。また、塞栓術に伴う臓器合併症も報告されています。本研究は、臍動脈の分岐解剖を明確にし、正確な臍動脈へのカテーテル挿入を早急におこなうこと、臍動脈から分岐しうる他臓器に分布する動脈存在の有無と頻度、および塞栓に伴う臓器虚血の回避により、動脈塞栓術の成功率を向上させることを目的とします。

- 3) 研究の方法：各種画像データを解析し、以下の検討を行います。
 - (1) 出血の責任血管（臍動脈と考えられる）の解剖学的分岐の特徴
 - (2) 出血の責任血管と同時に分岐しうる他臓器への動脈枝の有無
 - (3) 止血術後に、出血の原因血管として発達しうる側副血行路の有無
 - (4) 塞栓成功率
 - (5) 塞栓後の臨床的成功率
 - (6) 塞栓に伴う合併症の有無

4) 研究期間：平成 27 年 8 月倫理委員会承認後～平成 28 年 8 月 31 日

5) 上記の画像データの使用を選定した理由：本研究は、画像解析が主体なためです。

6) プライバシー保護・人権保護・倫理的配慮について：個人情報保護に関しては、医局研究室のコンピューターを用いますが、パスワード管理のため、研究責任者、研究分担者以外は閲覧できないようにしています。プライバシー保護、人権保護を厳守します。

7) 研究成果の発表の方法：画像データは論文にて公表される可能性があります。しかし個人が同定される氏名などはすべて消去します。また検査日時、年齢などの詳細も公表しません。したがって、研究成果公表時における個人の同定はできません。

8) 利益相反：本研究は特定企業からの資金援助はありません

9) 事務局、問い合わせ、連絡先：

小金丸雅道（放射線医学講座、准教授）

（住所）福岡県久留米市旭町 67

（TEL）0942-35-3311（内線 3790）